

1 東広島市のまちづくりの「これまで」と「これから」

1 東広島市の発展とあゆみ

東広島市は、1974年の誕生以来、長い歴史と伝統、そして、恵まれた自然環境を背景に、「賀茂学園都市建設」及び「広島中央テクノポリス建設」の二大プロジェクトを柱とし、社会基盤や産業基盤の整備を進め、学園都市として成長してきました。

しかし、2010年頃から人口増加の鈍化が見られ始め、魅力的な都市基盤の充実や産業基盤の整備など、まちづくりに関する課題が顕在化しています。

こうした課題の解決に向けて、2020年には大学と連携した「Town & Gown構想」(P2参照)の取り組みを開始し、2022年には50年後、100年後を見据えた新たなまちづくりの方向性や施策をまとめた「東広島市次世代学園都市構想」(P2参照)を策定しました。

3 東広島市の歴史・人口推移

東広島市の
総人口推移(総人口は現在の市域の人口を示す)

(万人)

22.0

20.0

18.0

16.0

14.0

12.0

10.0

1 学園都市建設プロジェクトを柱に 社会基盤や産業基盤を整備

賀茂学園都市建設基本構想・計画(1974年～)

・広島大学の統移転先として緑豊かな学園都市の建設を目指した。
・西条駅・広島大学間を学園都市の中心として、八本松・寺家・西高屋地区を副都心として整備することを位置付けた。

広島中央テクノポリス開発構想(1984年)

・テクノポリス基本構想策定調査地域に選定されたことを機に、先端技術の研究開発拠点の形成を目指した。

2 学園都市としての成長と 人口増加傾向の鈍化

学術研究機能・国際交流拠点の集積

人口増加傾向の鈍化、
成長の躍り場に

2 Town & Gown 構想によるこれからのまちづくり

東広島市は、世界を舞台とする大学や半導体産業をはじめとするグローバル企業が立地しており、産学官民の連携によるイノベーションが生まれる環境が整っています。これらの知的資源や国際的企業の集積を活かし、大都市を介さずに国内外の企業と直接つながる「ローカルハブ」の機能を持つ「次世代学園都市」を目指しています。

また、2023年には半導体産業への大型投資や国の支援が決まり、今後更なる投資が期待されるとともに、関連産業の集積を進める必要性も高まっています。この追い風を確実に捉え、更なる成長に向けた新たなまちづくりに取り組むことで、2020年の人口19.7万人から約2.3万人の増加を見込み、2050年には22.0万人を目標としています。

次世代学園都市構想の実現と更なる産業規模の拡大を見据え、暮らしや産業を支える都市基盤の充実を図ります。

3 Town & Gown や半導体産業の 大型投資を契機とした新たな まちづくりへの着手

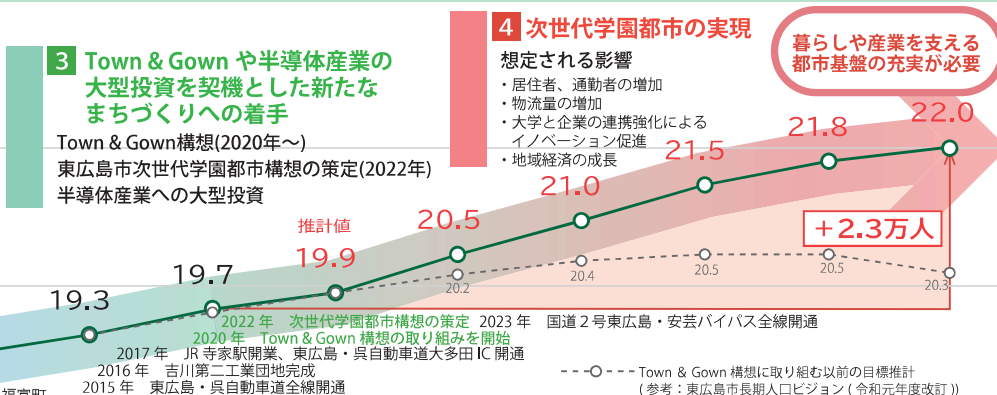
Town & Gown構想(2020年～)
東広島市次世代学園都市構想の策定(2022年)
半導体産業への大型投資

4 次世代学園都市の実現

想定される影響

- ・居住者、通勤者の増加
- ・物流量の増加
- ・大学と企業の連携強化によるイノベーション促進
- ・地域経済の成長

暮らしや産業を支える
都市基盤の充実が必要



コラム

半導体産業の動向と戦略

2023年、広島県における先端メモリ半導体生産に関するプロジェクトが、国が支援する4つの大規模産業拠点整備プロジェクトの1つに選定されました。

更に、2024年には国が示した「AI・半導体産業基盤強化フレーム」において、今後10年間で50兆円を超える官民投資を促進し、半導体生産などによる約160兆円の経済波及効果を目指して、先端・次世代半導体の生産拠点整備などの支援策を進める方針が示されました。

本市の半導体製造拠点では、生成AIや次世代モビリティの重要な技術基盤となる、高速・低消費電力・大容量化に対応する先端メモリの研究開発を推進しています。今後需要が見込まれる生成AI向けの最先端半導体の量産が期待されるとともに、関連企業の集積も進む見込みです。

【取り組み】

- ・広島大学は、日米半導体連携(11大学が参画)に参画することで、多様な半導体人材の養成を推進し、半導体の研究開発を強化しています。
- ・最先端の研究開発と高度人材の育成を目的とした「せとうち半導体コンソーシアム」が設立され、半導体サプライチェーンの構築が進む中で、関連企業の集積が一層促進されることが期待されています。